

立花口区の古民家における認証制度活用のための住民意識調査

九州産業大学 学生会員 一尾拓矢・九州産業大学 正会員 山下三平

1. はじめに

福岡市の東に隣接する新宮町は JR 新宮中央駅を中心とする西部地域での人口増加が近年著しい。一方、東部地域に位置する立花口区は、自然豊かな「立花山」の登山口の一つである。ここにはまた、築 100 年を超える古民家が残存するなど歴史的資源が多い。しかしこの東部地域は人口が減少して空き地、空き家が目立っている。地区の活気を取り戻し持続させるためには、その歴史的資源の実態を踏まえ、古民家を活用するなどの方策が必要である。そのためにこの地区に適した古民家の認証制度を適用・導入することが考えられる。

そこで本研究は立花口区の住民に、所有する建物の価値と今後の方針、建物の保存活用のための認証制度について尋ねる。これに基づいて認証制度の適用について考察することを目的とする。

2. 方法

(1)対象地域

本研究は新宮町東部地域の立花口区を対象とする。ここは立花山の山麓であり、登山口である大門口から沿道に古民家が立ち並ぶ。立花山の山頂にあった立花城は 1334 年、戦国時代に大友貞則が築き、港町博多を見下ろす重要な拠点であった。また梅岳寺や六所宮、独鈷寺など重要な史跡が残されている。

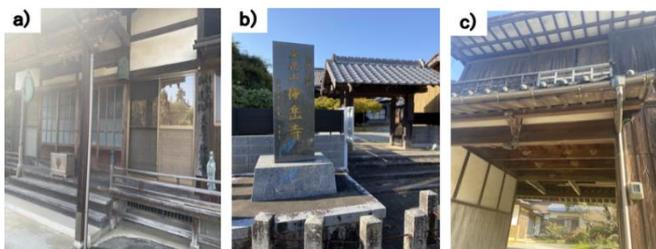


図-1 立花口区の古い建物の例。a)独鈷寺、b) 梅岳寺、c) 長屋門

(撮影者：一尾)

(2)質問項目と実施方法

立花口区の民家 106 世帯を対象に 78 部の調査票を配布した。回収数は 42 部で回収率は 55.1%となった(表-1)。質問項目は大きく 5 つに分かれる(表-2)。まず自宅の価値についての認識や維持管理の現状を聞き、続いて認証制度で実際に成功した金澤町家研究会の古民家の活用方法を提示し、意見を尋ねることとした。

表-1 期間,対象,配布数

調査期間	2021年10月21日～11月19日
対象世帯	106世帯
配布数	78部(回収数:42部)
回収率	55.1%

表-2 質問項目の概要

1.建物の価値についての認識
2.持ち家の今後の扱い方
3.維持管理の負担や活用方法
4.建築年代や維持管理の負担
5.立花口地区における認証制度の実現に向けた認証制度の説明や認証制度で期待できること

3. 結果と考察

(1)回答者の属性

回答者は男性が 70%以上を占める(表-3)。年齢は 70 代以上と 60 代で全体の 60%を占めており、高齢者の割合が高い。なお、回答者の職業は農業が一番多く 37%であった。

回答者の居住年数は、40 年以上が 55%と最も多く、10 年未満が 7%と非常に少ない(図-2)。

表-3 性別と年齢

	男性	女性	無回答	総計
20代	0	0	0	0
30代	0	0	0	0
40代	2	2	0	4
50代	7	4	0	11
60代	9	0	0	9
70代以上	12	5	0	17
無回答	0	0	1	1
総計	30	11	1	42

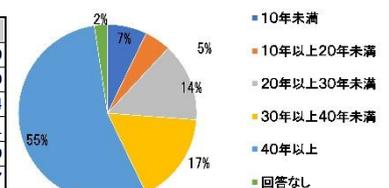


図-2 回答者の居住年数

(2)建物の価値についての認識

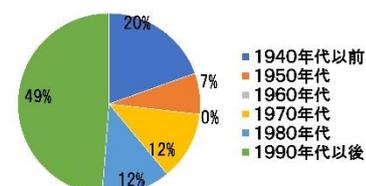


図-3 居住する建物の年代

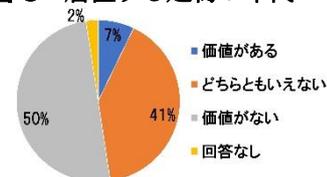


図-4 伝統文化的価値について

居住する建物は 1990 年代に建てられた比較的新しいものが 49%と約半数を占める(図-3)。一方築 50 年を超えるものは全体の 3 割近く(27%)に上る。居住する建物の伝統文化的な「価値がない」と応えた割合は 50%である。一方「価値がある」は 7%と非常に少ない(図-4)。

(3) 自宅の今後の扱い方

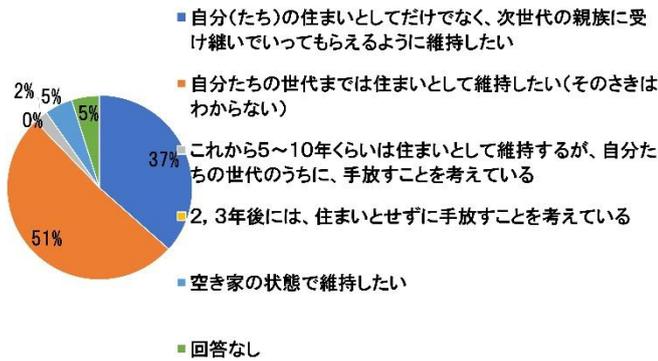


図-5 自宅のこれからの扱いについて

自宅の今後の扱いを尋ねると(図-5),過半数(51%)が自分たちの代までは維持を考え,約4割(37%)が次世代までは維持すると応えている。

(4) 維持管理の負担や活用方法について

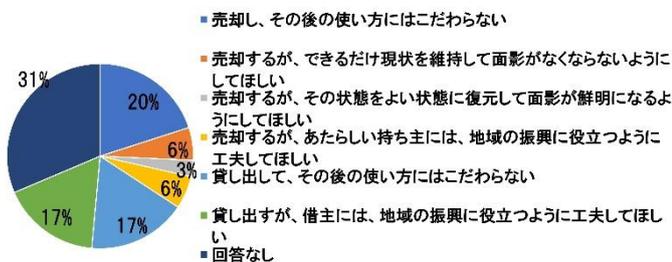


図-6 今お住まいの古い建物を手放すとしたら

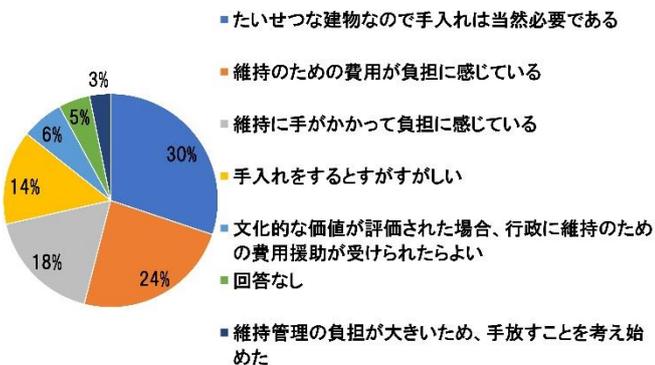


図-7 これまでの維持管理について

建物を手放しても「面影がなくなるように」や「地域の振興に役立ててほしい」と応えた人が約3割(32%)いる(図-6).一方維持管理の費用(24%)と手間(18%)に負担が大きいため手放すことを考えている人が43%に上る(図-7).

(5) 認証制度について

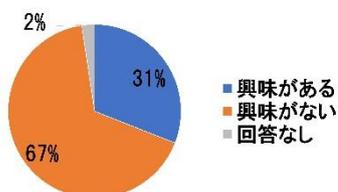


図-8 金澤町家の認証制度について

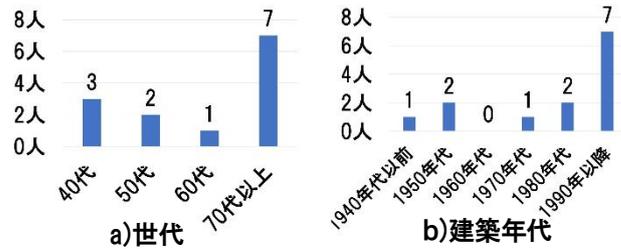


図-9 住民の世代と建築年代

金澤町家の認証制度に興味があると応えた方は31%(13人)である(図-8).

自宅の伝統文化的な価値を「ある」と応えた割合が7%にすぎないことを考えると意外な高さである(図-4).そこで「興味がある」人たちの世代と自宅の建築年代を調べると(図-9),70代以上が最も多い.建築年数が50年を超えるものは4件ある。

古民家をもつ人々に金澤町家のやり方に一定の関心を示す傾向とその内容が示唆され,興味深い。

5.まとめと考察

本研究は認証制度の導入するために立花口区に建物を所有する住民に意識調査を行った.その主な成果は以下のとおりである。

- 1) 築50年以上の建物は全体の1/4以上占めており,認証制度で活用できる家が多く残存している。
- 2) 金澤町家の認証制度に関心をもつ人々が1/3に上り,導入への可能性が示唆される。
- 3) 現在地区内の古い建物を手放す可能性を示す人々が多く今後を考える重要な時期にある。

立花口区の人々の1/3が金沢のやり方に興味をもち,築50年以上の建物が3割近くあることは認証制度の導入にプラスである.一方,金澤町家に関心を示した人々の持家の建築年代が古いものは4件にとどまる.しかしこの4件から認証の実装が進めば,その波及効果が期待できるのではないか.4件という数は少ないと思われるかもしれない.しかし地域全体では約30%が関心を示して無視できない.象徴的な物件が誕生すれば,新たな展開が生まれるのではないかと期待される。

今後,古い建物を所持している方の賛同を得ながら,まずは認証制度の導入を数件規模から目指したい.その後認証制度への興味を徐々に立花口区全体に深めていきたい.そのために同時に,立花口区の伝統文化的な特徴を専門的な調査により同定することが必要である。